

備 前 市 事 務 事 業 評 価 シ ー ト

(平成23年度事業)

事業の概要
事業開始年度: 平成17年度~
大項目基本目標: 02 健康でやさしさあふれるまちづくり
中項目基本施策: 02 健やかで生き生きしたまちづくり
小項目施策: 07 病院事業
事務事業名: 03 備前病院診療事業
根拠法令・例規等: 医療法 備前市国民健康保険条例
問担当課(室): 市立備前病院 事務部
合職・氏名: 医事係長 石原 高志
先電話: 0869-64-3385
このシート作成に要した時間: 2.0 時間

事業の目的
対象(誰・何に対して): 病気の予防及び治療を必要とする人
目的(何のために): 安心・安全で良質な医療の提供
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか): 安心安全な医療が受けられる環境整備と良質な医療を提供し、患者数の増加を図り、経営基盤の強化をめざす。

事業の実績
細事業名: 収納事業/未収金, 診療事業/入院, 診療事業/外来, 健診事業/健診, 地域連携事業, 相談事業, その他医事
事業の説明: 未収金の回収業務, 入院による診療サービスの提供, 外来による診療サービスの提供, 住民健診・企業検診・人間ドックによる市民の健康管理の提供, 病院と診療所での連携・病院と病院との連携・介護福祉施設等との連携を図り、患者さまにより良い医療サービスを提供, 入院中や在宅での不安、介護施設利用などの相談業務, 各種法令に沿った申請・届出等医療事務サービスの提供
右欄の評価の説明: <妥当性評価> 悪化であった外科医2名を確保し、手術件数も大幅に増加。外科での救急受入件数も増加している。また、健康管理部門では、無呼吸症候群検査、骨粗鬆症検査など設備機器の導入により健診項目の充実を図っている。良質な医療の提供を目指す。 <効率性評価> 新病院効果により入院、外来患者は増加傾向にある。引き続き経費削減、現状分析を行い更なるコスト削減に努め、患者満足度を高め市民が信頼して利用できる医療機関を目指す。 <有効性評価> 年度当初は、脳外科医1名の減と改築工事の影響などがあり、入院、外来患者共に大きく減少したが、後半は新病院効果、外科医師の確保による手術増があり、前年並みの収益の確保ができた。患者サポート窓口設置や地域連携室、病歴整理などを強化し、地域連携の充実に努め更なる収益増加に努める。

事業費等
事業費: 532,404 (平成21年度実績), 507,640 (平成22年度実績), 502,533 (平成23年度実績)
必要人員: 93.40人 (平成21年度実績), 98.18人 (平成22年度実績), 97.81人 (平成23年度実績)
事業費計: 1,201,372 (平成21年度実績), 1,212,860 (平成22年度実績), 1,208,329 (平成23年度実績)
国庫支出金: 69,408 (平成21年度実績), 77,262 (平成22年度実績), 125,538 (平成23年度実績)
市債: 1,131,964 (平成21年度実績), 1,135,598 (平成22年度実績), 1,082,791 (平成23年度実績)
一般財源: - (平成21年度実績), - (平成22年度実績), - (平成23年度実績)
受益者負担比率: - (平成21年度実績), - (平成22年度実績), - (平成23年度実績)
結果指標名: 入院, 外来
結果指標量: 入院 23,823 (平成21年度実績), 24,446 (平成22年度実績), 23,354 (平成23年度実績); 外来 49,887 (平成21年度実績), 48,613 (平成22年度実績), 48,474 (平成23年度実績)
対前年比: 入院 100.3%, 外来 103.2%; 入院 102.6%, 外来 97.4%; 入院 95.5%, 外来 99.7%
活動コスト: 697,669,000 (平成21年度実績), 670,598,000 (平成22年度実績), 664,773,000 (平成23年度実績)
単位当たりコスト: 29,286 (平成21年度実績), 27,432 (平成22年度実績), 28,465 (平成23年度実績)

事業の成果
成果指標名: 病床利用率(%)
年度: 平成21年度, 平成22年度, 平成23年度, 平成24年度目標値
目標値(A): 78, 78, 79.6, 81.1
実績値(B): 65.3, 67, 65.1, 到達目標値
達成率(B/A): 83.72%, 85.90%, 81.78%, 毎年度
成果指標設定の考え方・式や説明: 安定した病院経営をするためには、収益の確保と維持が重要である。このため、経営の効率化に経営指標(収支改善、経費削減、収入確保、経営の安定性等)の中から、収入確保に係るものとして病床利用率を成果指標として選択し、目標値を設定。 *病床利用率(%) = 入院延患者数 ÷ 診療日数 (365日又は366日) ÷ ベッド数

事務事業の評価
該当する項目を から へ < 「コピー」して「貼り付け」してください >
妥当性の評価: 市の関与の妥当性, 必要性, 市民ニーズ
効率性の評価: コスト, 手段
有効性の評価: 目的達成度, 市民参画度
妥当性評価: A
効率性評価: C
有効性評価: C

進行年度(H24年度)の改革改善内容
状況: 拡充, 現状継続, 見直し, 縮小, 整理統合, 休止, 廃止・完了
説明: 悪化であった外科医師2名を確保し、手術件数が急増している。平成24年1月改築開院後外来、入院患者も増加している。病床利用率も急速に改善傾向にあり、状況に応じ亜急性期病床を確保する。検診健康管理部門では、無呼吸症候群検査や骨粗鬆症検査、1泊ドックを4月から開始、オプション検査に充実を図っている。診療報酬の改定により、施設基準に合致した新たな届出等により診療報酬の増加が期待できる。

総合評価
平成24年1月改築、設備の更新、高度医療機器の導入、外科医師の確保等、診療環境の充実が図れた。前期は、脳外科医1名の減と改築工事の影響で外来・入院患者数が大きく減少したが、後期に入り、外科医2名の確保と新病院効果により前期分を相殺、前年並みの収益の確保ができた。今後はソフト面の充実を図り、収益の向上、安定した経営を目指す。
総合評価: B

平成25年度の方向性・取組目標
方向性: 拡充, 現状継続, 見直し, 縮小, 整理統合, 休止, 廃止・完了
取組目標: 市立3病院の経営形態を見直し、備前病院は日生病院との経営統合を目指す。医師・看護婦不足解消のため、勤務形態や勤務条件の改善に取り組む。経営の統合による経費削減に努め、亜急性期病床の確保による収益増加を図る。電子カルテシステムの導入により、医療情報ネットワークを強化、救急病院との医療連携の充実を目指し、市民に親しまれる安心安全な医療の提供を実施する。

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定
事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその留意事項を評価する際の留意事項